

九条はらまち

「はらまち九条の会」会報 No.401

2023(令和5)年11月10日(金)発行



「アリス」の**谷村新司さん**が、10月8日74歳で死去。♪「今はもう
だれも」「遠くで汽笛を聞きながら」「冬の稲妻」「いい日旅立ち」「チャンピオン」
「昴ーすぱる」「サライ」など、名曲ばかりです。♫音楽を通じて平和を願い、日中国交
正常化に尽力し、東日本大震災では復興のツアーで被災民を激励されていました。

相双地区在住者の被爆体験集がタイ語に翻訳され、大学のテキストに

▶『私も証言する』の二十名の被爆体験者中、長崎で被爆したNさんは原町区橋本町で奥様と暮らしていました。でも今年二月二日八九歳で死去され、二十名全員が亡くなったことになりました。Nさんも被爆の後遺症に苦しみ続けた生涯でした。



40年前の1983年出版の相双地区在住者の被爆体験談集『私も証言する』が、タイ国立のシーナカリンウィロート大学でタイ語に翻訳され、今年5月にA5判・147ページとして出版。大学のテキストとして使用されています。

翻訳したパットオン助教授の夫は本会会員高橋美加子さんの長男で、パットオンさんは3・11後に南相馬市をたびたび訪ね高橋さんから『私も証言する』を紹介され、原爆の本が少ないタイで翻訳と被爆の学習を決心しました。

学習したタイの大学生たちは、「初めて知った」「驚いた」「黒こげの遺体や黒い雨のことは知らなかった」「放射能に様々な後遺症があると知った」「将来教師になるが、戦争を伝えたい」「悲しくて涙が出た」と話しています。

(8月5日『朝日新聞』千葉県版参照)

パットオンさんは「タイの学生が戦争のことを学ぶことができ、今後たくさんの人々に原発や原爆の戦争の怖ろしさを伝えていきたい」と山崎への手紙に書かれています。



以上について2023年9月3日の『福島民報』でも報道されました。(報告・事務局 山崎健一)

会員さんの著作 原発事故被災者は語る

写真・文 菊池和子 『そこに原発があったから』

東京の写真家でルポライターの菊池和子さん（会員）が、福島第一原発事故被災地の相双地区を訪ね歩き被災者の取材を重ね、多くの写真とともにその被災体験をまとめた著作。9月5日遊行社から発行の新刊です。

特に帰還困難区域の浪江町津島地区の被災者の様子や、本会事務局員で「鈴木安蔵を讀える会」会長志賀勝明さんの反原発闘争については読み応えがあります。(遊行者・日野市平山1-8-7、B6判・141ページ・¥1800+税)。



会員さんの出版本

作・絵 古知屋恵子『**原発かるた**』遊行社 ￥1,800+税

1967年神奈川県生まれ、美大卒の版画家の一主婦が、原発事故で福島で作った電力を使っていたことを知り、政府と東京電力の対応に怒りが込み上げて生まれた『原発かるた』。〈右〉はその一部です。



この本を出版した遊行社社長の本間千枝子さん（本会会員）は、福島県出身です。震災や原発事故の関連本を続々と出版されています。

あ・アンダーコントロール首相世界に嘘をつく
い・因果関係認められぬときと云う
え・影響はないよあくまでただちに
か・語り部に批判を言わせぬ伝承館
く・国や企業に罪を問わない裁判所
け・検定で原発美化する教科書へ
こ・高濃度混ぜて薄めて低濃度
し・除染と後処理大手ゼネコン大儲け
せ・節電でわかつた電気は足りている
と・東電の逮捕者はなくデモ隊逮捕
は・反原発言うのと干される芸能界
ひ・ヒバク国それでも支持せぬ核廃絶
わ・笑つてりやヒバクしないと御用学者

新聞投書 えん罪、松川事件も袴田事件も

▼2023年10月25日『福島民報』

誤った裁判のために、現在も苦しんでいる無実の人々は少なくない。えん罪をなくすには国民が大きな関心を持ち、再審法（刑事訴訟法など）の改正が必要で、また矛盾の多い死刑制度を廃止すること、も大きな課題といわれています。

冤罪のない社会にしよう

福島市・山崎 健一

（無職 77）

福島大学で開催された松川事件無罪確定から60年を記念した全国大会に参加しました。もう多くの県民にも忘れられていくであろうが、松川事件は昭和24年8月の夜半、東北本線の松川—金谷川駅間で発生しました。上り列車が脱線転覆し、乗務員3人が死亡。被告となった20人が14年間の裁判闘争の末に全員無罪となった戦後最大の冤罪（えんざい）事件です。

大会では、冤罪をなくすため再審法の早期の改正を目指さなければならぬという嶋田祐美弁護士の説得力ある講演に共感しました。関連して

福島市の映画館で、48年間も死刑囚として獄中生活後、再審決定で釈放された袴田巖さんのドキュメンタリー映画「筆と祈り」を観賞。一度犯人と見なされた人の無実を証明する難しさを考えさせられました。

上映後の姉の袴田秀子さんと笠井千晶監督のゲストトークでは、巖さんの無実を信じて支えてきた秀子さんの強さや明るさにも心打たれました。まさかとは思いますが、検察が証拠を隠蔽（いんぺい）したり捏造（ねつぞう）する恐ろしさ。何事も無知や無関心が一番いけないと思いました。

＜事務局より＞

地球が異常事態で、酷暑、旱魃、大雨、春と秋が短くて気候もおかしい。同時に人間も動物もおかしくなってきたのか。でも私たちは心身共に健康で元気に過ごしましょう！

今年最後の会報です。事務局員が知恵を出し合い編集を続け、18年間で400号発行になりました。支えていただきました会員の皆さまに、心から感謝申し上げます。〇〇

はらまち九条の会 事務局

〇会長：平田慶肇 TEL(0244) 24-1211

〇事務局長：早坂吉彦 TEL090-2975-2508

〇事務局次長：山崎健一（福島市）TEL090-7527-5453

Eメール：yamazakiken1@gmail.com

〇会計：井上由美 〒975-0031南相馬市原町区錦町1-43井上薬局内 TEL22-7511・FAX26-0892

〇石田賢二（郡山市）TEL080-5556-4037

〇番場恵子 TEL22-0715

〇大浦祥見 TEL24-0704

〇志賀勝明（相馬市）TEL090-9530-5524

〇若松麟二 TEL090-4929-7227

〇田中徳雲（小高区）

北風小僧の寒太郎
今年も町中でやってきた
ヒューン ヒューン ヒュルルルルルル
冬でござんす ヒュルルルルルル

